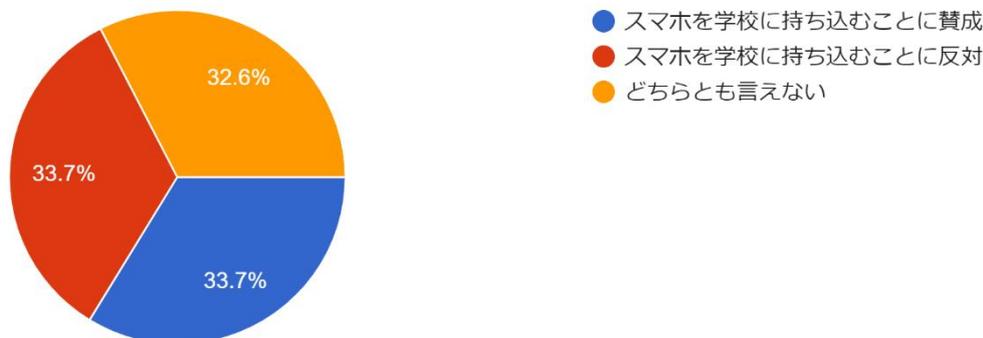


スマートフォンの学校持ち込みに関する生徒アンケートまとめ

1 スマートフォンの学校持ち込みに関する生徒たちがもっている結論

あなたの結論を教えてください。

86 件の回答



2 スマホを学校に持ち込むメリットは何だと考えますか？

① 連絡に関する内容

親との連絡ができる（17人）

授業中に急に家の用事ができたとき家族からの電話で知れる

授業中急に家の用事ができたとき家族からの電話で知れる

すぐに連絡ができる

確認がすぐできる

便利・連絡ができる（もし何かあった場合すぐ通報、連絡ができる）

もし何かあったときに連絡できる（電車通学で少し遠いのでなにかあったときにすぐ連絡できるから）

連絡手段となる（登下校災害時など）。時刻の確認。

連絡手段が手元にあるという安心感が生まれると思います。

電話ができる

休み時間に親や友達などとコンタクトがとれる

突然残らなきゃいけなくなった時とか、スマホがあればすぐ連絡ができる。

連絡ツール

連絡等の便利さ

連絡できる

連絡ができる

すぐに連絡できる

② 学びに関する内容

わからない用語や漢字をすぐに調べることができる。

授業にて活用ができる。

調べ物がパッとできる。

貴重品の管理について生徒が自ら考え、学ぶ機会になる

パソコンなどの調子が悪くても大丈夫 パソコンが苦手な人でも出来る

スマートフォンには調べ物をするための機能があり、いつでもどこでも学習できる便利なものなので、学校に携帯電話を持ってきてもいいと思います。また、学習への関心も高まります。

すぐに、開けるから調べ物がしやすい

自分が調べたいことに気軽に調べることができる

調べたいときにすぐに調べられる。

すぐ調べられる

知らないことを色々調べられる

わからないことをすぐに調べることができる

調べることが楽

③ 安全に関係する内容

登下校の安全確保ができる。

災害時にすぐに保護者に連絡をする事が出来る事だと考えます。（恐らく一斉送信の緊急メール等で安否確認は出来ると思いますが。）

下校中に何かあった時に親や学校や病院や警察に素早く連絡が出来る。

災害時などで親に連絡できる

もしもの時の連絡手段として使える。

緊急時に保護者と連絡をすることができる

緊急時に親と連絡を取ることができること。

緊急時に情報や親とやり取りができる

緊急事態に親と連絡が取れる。また、通報できる。（緊急事態の例→下校中の災害、事故、不審者 ※親と話し合ってから使う。）

緊急時に連絡がとれる。

緊急時に親との連絡がすぐ取れる。

災害時の連絡網として使える

緊急連絡・もし事件に巻き込まれたときなどに連絡が出来る(gps など)

不審者や不審物があったときに写真を撮る

災害時にすぐ連絡が取れる

緊急時に連絡が取れること

緊急のときなどにすぐ連絡できる。

下校中何かあったときに電話やメール、ラインなどで親や警察、学校とやり取りができる

緊急のときすぐに親に連絡がとれる

緊急連絡などが簡単

緊急のときに使える。

タブレットと違い、持ち運びが楽。

緊急時に連絡がとれる。

不審者がきた時一人で電話して警察呼ぶなど

緊急時に使うことができる。

緊急時にすぐ連絡できる

緊急時にすぐ連絡を取り合えることだと思います

④ その他

生徒が楽しむことができる

どこでも使える便利なものだから

友達との無料通話の交換ができる→対面せずに情報共有ができる。

LIENなど友達同士で交換することでコミュニケーションを取る事ができると思う

友達との交流が深まる

特にはないと思います。→Chromebookがあれば、スマホと同じことができます。

会話の幅が広がる

新しい繋がりができる

昼休みのみ使えるとしたらその時間が給食と同じように午前の授業を頑張れる可能性がある

クロムブックで事足りるのでメリットなし

クロムブックの実用性がなくなる

休み時間の会話が増える

クロムブックで事足りるので特になし 強いて言うなら軽い

3 スマホを学校に持ち込むデメリットは何だと考えますか？

① 安全に関する内容

帰るときに歩きスマホをして、人にぶつかる。

登下校の歩きスマホ。

学校の登校時や下校の際に歩きスマホをする人が出てくる。

下校中、歩きながらスマホをいじる人などが出てくる。

歩きスマホをする人ができるかもしれない

帰り道にスマホをいじりながら歩く人が出てくる。

登下校中の歩きスマホ

歩きスマホなど挙げればいくらでもある。

歩きスマホをする人がいるかも。

歩きスマホが多くなりそう。

下校中にスマホを使ってしまう

② 学びに関する内容

授業に集中しない。

着信音等の音が授業の妨げになる可能性があると考えます。

マナーモードにするのを忘れて通知が鳴ってしまうこと

授業中スマホで遊ぶ人が出る

授業中に気になってしまい、集中できなくなる。

授業中にスマホを触る生徒がいる可能性がある

授業中に使ったり休み時間に使って授業に遅れてしまう

スマホをいじってしまう

通知のおとがうるさくなる

授業中に使う人がいる

勉学に集中できなくなる

授業の際に隠れてスマホを使う人が現れる可能性がある

スマホを気にしすぎて授業を集中できない可能性がある
学校は何をする場所
授業に集中できない可能性がある
授業中に通知音になるかも。
マナーモードにし忘れたとき授業の妨げになるかもしれないこと
スマホのことが気になる
授業中や昼休み中に隠れていじる人が出る可能性がある
授業中にスマホを見る人がいるかもしれない。
授業中にゲームしたりしてる人ができるかもしれない
授業中に、万が一通知音が鳴ってしまった場合、集中が切れてしまう。
授業中に、スマホに気を取られてしまい、集中できなくなる

③ モラルに関する内容

登下校中に写真を撮って、許可なしに友達（他の学校）に送る可能性がある人（〇〇って誰？その子の写真△△に送ってもらわなどの発言をしている人）が何人かいるから。
登下校中に歩きスマホをしている8・9年生がいるから、その人のように歩きスマホをする人や、8・9年生がやってるからと言う理由で7年生がする可能性があるから。
持っていない人へのいじめが起こる。
奪って遊ぶ人ができる
スマホをかってに見られたりイジメに繋がるかもしれないこと。
カンニング。
学校でのプライバシー侵害。（SNSなども含め）
テストなどでカンニングが可能となる
インターネットでのトラブルが起こりかねない
スマホ紛失や盗難・破損
盗撮
勝手にいじる
学校内で SNS による問題が起こる可能性がある
持っていない人に対してのけいべつ
もし、学校の中で撮った写真が sns に載せる人がいたら危険そう。
学校の中を SNS に投稿する人が出てきて個人情報漏れる可能性がある

④ スマートフォンの管理に関する内容

スマホが取られる可能性がある
隠れてスマホをつかうひとがいそう
もしかしたら壊したり、なくしたりしてしまう可能性があるから。
紛失する可能性がある
なくしたり壊れたときは自己責任になること。
スマホがなくなったとき、責任が取れない
なくなったときに困る
破損や紛失、事故などが起こる危険性や、自己管理の徹底が出来ないことがあると思います。
紛失に関するトラブルが頻発する

教員が管理できない。

紛失や破損の危険性がある

破損 盗難などの恐れがある

スマホは、貴重品であり、鍵付きロッカーに入れていても紛失する可能性が大いにある。

もし誰かのスマートフォンが紛失したら、誰が責任を取るのでしょうか？

貸し借りのトラブルが起きる

⑤ その他

スマホを持っていない生徒はどうする？

様々な問題がおきる。

スマホを使う時間が増えると人間関係が悪くなっていく。

自分の考えを持たなくなる。

友達との、会話時間が減るかもしれない

なぜスマホを持ってくるといふ思考になったのか神経がはかりしれない

持っていない人がいる。

持っていない子がいる

休み時間の生徒間のコミュニケーションや授業中の集中が疎かになる可能性がある

校庭に遊ぶ人が少なくなるかも

スマホを持っていない人はどうするのでしょうか。

区が1人1台タブレットを配布してくれてるわけだから、スマホを持ち込まなくてもいいと思う。

学校に持ってくることで、依存症が大いにあり、なおかつ休み時間もスマホだと、他のことをするのに気を取られてしまうのではないか。

休み時間などに、スマホを使っていると、スマホを持っていない人が一人になってしまう可能性があると考えたから。

4 デメリットを解消するための具体的な手立てを教えてください。

① スマートフォンの設定に関する内容

写真が撮れないようにカメラを使えないようにする。電源を20%以下にする。

スマホを学校に持ち込む家の親にはスマホに制限をかけてもらう

Wi-Fiを電子黒板を使うところ以外置かない

フィルタリングをかけて使えるアプリを制限する。

親に協力してもらいスクリーンタイムなどで制限時間をつけてもらう

通知オフにする

② ルールに関する内容

登下校、授業中には使用しない。

持ち込みに関する約束を作る

基本電源 OFF

授業中に触る→スマホに触っても良い時間を制限する新たなルールをつくる（休み時間限定など）

自分の教室から出さない

しっかりルールを決めること。

基本は持ってこないが、どうしてもの方は、持ってきてもいいと思う

遊んでしまうアプリを取り除いたスマホ は持ってきてもよいのではないか
マナーモードにする
学校で決まりをつくる
使用時間を決める
関係のないことを調べたら、没収
細かくルールを決め、それを徹底すること、守れない人が少しでもいたら、持ち込めないようにしてほしいです。
学習や生活に必要な用事でしかスマホを触らないルールをつくる
学校で使っていていい時間と使わない時間をつくる。
制限する。ルールを作った上で使う。
授業中の必要なとき以外使用禁止
昼休みはいじってもいいようにする
使っていていいときと悪い時の区別をつける
帰るまで取り上げる
厳密なルールを考える 例) 通知を切る、使える時間帯を決める など…
遊んだら持ってこれなくなる
制限をする

③ スマートフォンの管理に関する内容

職員室で先生方に預かって頂けるといいかと思います。
廊下にあるロッカーの1つを使って持ってきてる人のスマホを入れて保管する。パスワードは先生しか知らないようにして生徒たちが勝手に開けないようにする。
紛失→ロッカーで貴重品の管理を徹底させる。紛失した場合は学校側は責任を負わないこととする
朝先生が預かりある時間になったら返す
ロッカーにしまう（スマホ専用のを作る）あと電源を消す
登校したら電源をきり、ロッカーに入れる
スマホを入れるケースを配置したりすると良いと思います
授業前にスマホを集める
必要なとき以外、スマホはしまっておく。
使うとき以外は一つの場所で保管する。
ロッカーにスマホ入れのようなものを作る
授業中のときは先生が一旦預かる
先生が厳しく管理をする
授業前に先生にわたす
朝、先生が回収

④ その他

スマホを学校が用意する。
デメリットのような人を見かけたらすぐに先生に伝える。（デメリットのような人の名前なども分かる場合はその人の親に報告し、再度親とスマホのことについて話し合ってもらおう。）
きっちり指導する
手立てを守れば全然持ってきていいと思う

学校全体で、話し合えば解決できなくないかもしれないが、今の所、デメリットを解消するのは難しいと思う。

職員室から電話をかけてもらうことができ、廊下にも時計があるためスマホを見なくても学校内では問題ない。

契約書のようなものを作る

特に授業で使ったりしないので、持ってくる必要は、ないと思います。

いじめにつながるって言う人もいると思いますが個人的には裏で起きていた陰口が表面に出てくるっていうことになるので、いじめを無くすにはいい機会だと思います

スマートフォンを学校に持ち込む際は、自分で責任を持ち、保護者の同意を得たりすると良いと思います。

友達とたくさん話す

持ってこない

学級委員に使い方を説明して生徒たちに伝える

我慢する

ポスターなどで呼びかける

スマホを持ち込まなくてもいいと思います。もし、紛失があった場合に学校が責任をとったり、承諾書を保護者に書いてもらう等、手立てはたくさんあると思う。

スマホを持ってこなければいい

5 考察

文部科学省では、スマートフォンの学校への持ち込みについて、次の4つの条件を満たした場合には認めるとしています。

- | |
|---|
| (1)学校での管理方法と紛失時の責任の明確化
(2)学校や家庭による危険性の指導
(3)学校と生徒らが協力したルール策定
(4)閲覧対象を制限する「フィルタリング」を保護者の責任で設定 |
|---|

これを受けて、本校でもスマートフォンの学校への持ち込みについて対応を考える時期が来ていると考え、生徒に対してアンケート調査を行いました。

これからの Society5.0 の社会で生き抜く今の子どもたちにとって、スマートフォン（もっと便利なものが開発されるかもしれませんが）は、生活の必須アイテムとなることは確実です。以前であれば、危険性を排除する観点から中学生にはもたせない、学校へは持ち込ませないといったことが当たり前でした。しかしこれからは、危険だから使わせないのではなく、いかに安全に便利に使いこなせるようにモラルや知識、スキルを高めていく指導が必要であると考えます。だからと言って、中学生のうちからそのような能力を子どもたちに身に着けさせることが大切であるかといったことについては、もう少し後でも可能な気がしますし、このことで学校として中学生にスマートフォンを持たせることを奨励しているわけではないことはご理解ください。多くの中学生がスマートフォンを所持していることと、学校へ持参させたいと考えている保護者や生徒がいるというニーズがあることから、学校としても対応が必要であると考えています。

幸いスマートフォンは、標準服のように、儀式の時に統一するとかしないとかといった、全体で揃える必要のないものです。学校としてのルールを作成するときには、必要でないとする生徒にも参加してもらって、持ち込む生徒・持ち込まない生徒両方の生徒が、一人としていやな思いをしないで済むルールづくりをしなくてはなりません。実際に学校に持ち込む場合は、必要と考えるご家庭と学校との問題であるとも考えることができます。

生徒たちが持っている結論は、持ち込むことに賛成・反対・どちらともいえない生徒がほぼ3等分しています。賛成と反対についてはまったくの同数です。メリットとしては、保護者との連絡が取れるが一番多くなっています。これは、急な居残りなど保護者への連絡と、保護者が急に外出留守ことになったが、鍵をもっていない子どもへの連絡といったことが想定されているかもしれません。ただし、これらの連絡であれば、現在のように学校と保護者との電話連絡でも要は足りると思います。ただし、気楽さといった点ではかなり違いがあるようにも感じます。そして、緊急時の連絡も多くなっています。かなり使用頻度としては低い災害時の連絡、ほかにも事故や不審者に関する緊急連絡など、災害よりは頻度の高いことも想定しているようです。

学に関係する部分では、調べ物がすぐにできるや Chromebook とは違いログインの必要がないので、すぐに使えるといった回答が多いのですが、学校の授業では Chromebook を使用します。

デメリットとしては、歩きスマホなど安全面の問題や、授業中使用したり気にしたりにより授業に集中できない、SNS 関係のトラブルが起きるなど客観的にとらえていると思います。また、Chromebook があるからスマホは必要ないといった回答もありますので、Chromebook でできることできないことを簡単にお知らせします。

貸与している Chromebook でできること

インターネットの閲覧、オンライン会議、文書作成や表計算、プレゼン用スライドの作成、学習用アプリを使用した話し合い活動や個別学習、先生や生徒同士の意見交換、写真や動画の撮影など

貸与している Chromebook でできないこと

Wi-Fi 環境がないとログインできない、個別的な生徒同士の連絡（クラスルームでの連絡、G-Mail は受信できるが送信できない）、アプリのインストールなど

※ 保護者への連絡など個別的な連絡はできません。ログインに QR コードを使用しますので、なりすましも非常にしにくくなっています。

また、デメリットの中に授業中に遊んでしまうや、ルール違反する生徒がいることが想定されています。これを見て、そういった心配をするのは雰囲気としていやな雰囲気になることを嫌うためだと思いますので、そのことについては非常に好ましく思います。しかし、更に一歩進んで、もしそのような生徒を目にした時に、そのままにしておくのか、丁寧に声をかけていくのか、自分では声をかけられなくても先生に相談できないのかといったことを考えてしまいます。まったく見ず知らずの他人に対してならば、なかなかそのようなことは大人でもできないと思います。しかし、同じ学校の生徒、同じクラスの生徒に対してもっと気軽に声をかけられる雰囲気がないということについては、今後の大きな課題だと捉えます。本校は幸いにも他校と比べていじめの発生率は非常に低い学校です。しかし、このような状況ではいつまでたっても、いじめをゼロにすることはできません。生徒たちには主体的に考え自分たちの力で意識を改善してもらい、学校の風土を変えていってもらえるよう、支援していきたいと思っています。

今後は保護者の皆様にもアンケート調査にご協力いただき、ご自分のお子さんにスマートフォンを学校に持ち込ませたいとお考えのご家庭がある程度まとまっていらっしゃる場合は、持ち込みに向けて対応していきたいと思っています。

文部科学省が提言している4つの条件については、具体的には下のようなレベルで考えています。

(1) 学校での管理方法と紛失時の責任の明確化

管理方法については、鍵付きロッカーでの管理を基本とし、破損・紛失等に関しては学校では責任を負わない。

(2) 学校や家庭による危険性の指導

学校では年に1回以上スマホ安全教室等で指導。家庭では各家庭のルール作成と親子でスマホ検定（ソフトバンクのスマホ検定程度）合格。

(3) 学校と生徒らが協力したルール策定

生徒会を中心とした臨時の委員会を立ち上げ、生徒と学校が協力してルールを策定。

(4)閲覧対象を制限する「フィルタリング」を保護者の責任で設定

18歳未満のスマホについては、購入時に店頭でフィルタリングを行うことを法律で義務化されています。それ以外に必要と考える設定（使用できる時間等）があれば、家庭の責任で実施。

スマートフォンについては、これが原因でいじめが発生したり、自殺にまで追い込んでしまったりといった痛ましい事件が後を絶ちません。本来は、生活を便利にするツールとして世の中に出てきている物です。心や知識が未成熟の子どもたちに利用させるのは、ある意味両刃の剣となります。条件がそろったから「はいOK」といった安易な形ではなく、活用を開始する前の指導、開始した後もしっかりと見守り、保護者ご自分のお子さんの使用状況を管理していく必要があります。これらのことを意識した上で、ぜひアンケート調査にご協力ください。

令和3年9月

板橋第五中学校 校長太田